

見果てぬ夢 (桜が丘中央の未利用地について)

夢が幻だったのではない。現実からかけ離れたことを唱えたのでもない。これまで岡山の緑と水と空気を守る連絡会に始まる幾つかの環境活動に、環境首都フライブルクとストラスブールへのエコツアーに参加、その後も中欧の都市を独りで訪ねるなど視野を広げてきたつもりだが、今回のように自らが旗を振ったのは初めてだ。それは下記二つの出版物に背を押されたからである。殊に「表現論」はこれまでSDGsを企業や役所の課題と見ていたが自分事と捉えて行動せよというのである。



自分と共通する考えを期待して20余人に持ち掛けたが賛同を得たのは半数で、会議室予約のために会合参加を訊ねたら7人だけになった。(他に賛成だが行動できないが数人) 地元西8丁目では近隣公園さえ管理が行き届かないのに他所にまで手を付けるなど。なぜ市議を巻き込まないのかと言う人もいるが、議員は概して自己主張が強く得票本位、先ずは住民だけで方向付けた後に桜が丘出の市議の中から数人に、その後に連合町内会にと考えたが、世知に疎い自分への壁だった。一途な目標は遠く、異常気象が続くのを知っているても行動しないのはこの団地だけではなさそうで、温暖化対策が緑化の理念に結び付くのはまだ先のような。30年前に「環境」と言えば気取ってると思われたように。

9月11日に市・地域整備推進室主催の市民への説明会があって、100人程に混って私も参加した。

2本の県道を主にする交通軸、合併前旧町の3拠点と市中心の行政拠点、産業別土地利用などコンサルが作ったような理屈先行で具体性に欠ける資料は市が発足時とさほど変わらず進展がない。現に抱える優先課題への取り組みに茶を濁し、住民からの質問も時間切れで、「説明会」をした実績作りに過ぎず、ここでも緑化が出る幕はなかった。行政トップの鈍行感覚、議会も概して枝葉で“理念”が論議されるのは希だ。住民の意識向上は小中学校からの教育を改めるしかないのかと思う。

私は間もなく88歳になり、グラウンドゴルフと高校同期仲間のオンラインミーティングが楽しみであるが、馬齢を重ねるだけでは社会に申訳ない。生きてるうちに実現できなくても道筋だけはつけておきたいと実力を顧みずに、今回の「桜が丘中央・未利用地につい

て」を提案した次第であるが、思わぬ結果になった。ただし、諦めたのではない。9月議会が終わるのを待って市議に、市・地域整備推進室にも改めてSDGsを根拠に緑化の実現を訴えるつもりである。

ここで提案の動機になり根拠にもなった二つの出版物を紹介しておきたい。

街路樹は問いかける 岩波ブックレット：国内外の街路樹景観と自治体の施策を紹介して評価するだけでなく、異常気象が都市のコンクリートジャングル化によるところが大きいと説く。アメリカ・ドイツ・フランスにおける街路樹事情が述べられ、写真と図解が多くて分かり易く頁を繰るのが楽しい。

SDGs 表現論 海竜社：類書のようにSDGsを解説するのでなく、大学の英語教育にSDGsを取り入れた手法を広く社会活動に利用することを薦めるガイドブックである。

SDGsをプロジェクトとして普及活動を展開する立命館大学師弟の共著で、記述から互いに尊重しあっていることに好感する。多くの企業や役所の当事者が読めばSDGsを煙たい目で見えていた目が覚めるのではないかと思う。

〈終りに〉

今回の活動はいい結果にならなかったが、世の中を知るのと未知の知識を得る機会になって、今年一番の成果になるのではと思う。

KOZOOM28のテーマ「夢」が与えてくれたお陰と感謝して報告にいたします。

中西 卓@岡山

